

いま求められる 遠隔読影・画像参照環境とは？

VUCA時代の放射線診療に向けたシステム構築・運用

企画協力：池田龍二 熊本大学病院医療技術部診療放射線技術部門副技師長



VUCA (Volatility・Uncertainty・Complexity・Ambiguity) 時代と呼ばれる中、予測不能な事象が起こる状況を踏まえ、感染防止対策などの観点から遠隔での読影・画像参照が可能な環境を構築する施設が増えています。また、医師の働き方改革が進められていることから、生産性の向上を目的とした遠隔読影・画像参照環境の構築も求められています。特別企画では、VUCA時代における遠隔読影・画像参照システムの構築・運用について考えます。

特別企画 いま求められる 遠隔読影・画像参照環境とは？

VUCA時代の
放射線診療に
に向けた
システム構築・
運用

1. 総論

— VUCA時代の放射線診療に向けた 遠隔読影・画像参照環境

池田 龍二 熊本大学病院医療技術部診療放射線技術部門

「遠隔画像診断に関するガイドライン2018」¹⁾が示されてから、4年以上が経過した。「7. ガイドラインの利用指針」にも記載されているように、「技術的側面に関わる部分においては、将来の技術的進歩により変更が行われる点が生じることは避けられず、新しい技術が普及した段階および定期的に見直していく努力が必要である」と示されている。これはVUCA時代

において特に重要なポイントである。

今回の特別企画である「いま求められる遠隔読影・画像参照環境とは？—VUCA時代の放射線診療に向けたシステム構築・運用」では、刻々と変化、成長するデジタルヘルス分野における、遠隔読影・画像参照環境の現状と課題を整理し、変化に対応するための情報と知見を共有する。

遠隔医療・遠隔画像診断の現状

矢野経済研究所が示している「遠隔医療市場に関する調査を実施(2021年)」²⁾において、図1に示すように、遠隔画像診断(読影サービス)市場は増加傾向にある。遠隔医療の中でも遠隔画像診断の市場は最も大きく、民間事業者が参入するなど、市場が成熟期を迎えていると示されている。遠隔医療におけるオンライン診療システム市場は2019年度から2020年度で市場売上高は2倍の22億円